

平成30年度 第1回 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 事業運営懇話会

平成30年5月31日



草津市総合政策部草津未来研究所

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業

全体の流れ

UDCBKの活動テーマ

平成29年度の活動テーマと実績

平成30年度の活動テーマと予定

法人化の検討状況について

草津市健幸都市基本計画の基本方針と基本的な視点とUDCBKの役割

基本方針

まちの健幸
づくり

ひとの健幸
づくり

しごとの
健幸づくり

基本的な視点

都市計画や公共インフラ
整備等の観点からの健康
に対するアプローチ

個人の健康づくりや支え
合いのコミュニティづく
りを含む地域の主体的な
健康づくりの支援等の強
化

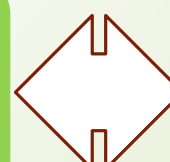
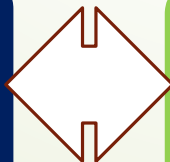
健康産業の振興や大学・
企業等様々な主体と連
携・協働した取組の実施

UDCBKの役割

都市空間デザインの提案
(専門集団としての
UDCBK)

新たな活動の創出
(サードプレイス)

産学公民連携の
プラットフォームの運営
(対話型学びの場)



サブテーマ 健幸都市空間を構成する3要素

インフラ
ストラク
チャー
(基盤整備)

ネイチャー、カルチャーの積み重ねにより形成された主に経済活動を支える下部構造

カルチャー
(文化)

ネイチャーに育まれた地域固有の習慣や活動など主に社会活動の基盤

ネイチャー
(自然)

地域の活動の源となる気候や地形、それにより育まれた生態系システム

UDCBKの役割との対応

サードプレイス

UDCBKがサードプレイスとしての機能を果たすために必要なサービスを検討する。

プラットフォーム

産学公民連携のプラットフォームとしての機能を果たすために必要な対話の進め方や基本的な考え方などについて利用者ととともに考える。

サード
プレイス

プラッ
ト
フォ
ーム

サードプレイス、及びプラットフォームとしての機能を果たすために必要なレイアウトや備品等ハードについて利用者ととともに考える。

全体の流れ

UDCBKの活動テーマ

平成29年度の活動テーマと実績

平成30年度の活動テーマと予定

法人化の検討状況について

平成29年度のテーマ

メイン

健 幸 都 市

サ ブ

インフラ
ストラク
チャー
(基盤整備)

交 通

カルチャー
(文化)

文 化

ネイチャー
(自然)

琵琶湖

平成29年度スクール・セミナーのテーマ

№	分類	タイトル	サブテーマ			役 割		参加人数
			交通	文化	琵琶湖	サードプレイス	プラットフォーム	
1	アーバンデザインスクール	草津の未来の交通について考える（全5回）	○					104
2		都市の風景のつくりかた（全5回）					○	124
3	未来創造セミナー	新しく生まれ変わるUDCBK				○	○	23
4		市民も変わる、行政も変わる!! オープンガバナンス					○	16
5		草津ってどんな感じ		○				34
6		予測不能な時代の未来のまちづくりを考える					○	23
7		みんなでつくる「まちライブラリー」				○		20
8		「感じて、ふれて、ベトナム！」フェスタ		○				25
9		草津に生まれ育ち、そして草津を離れてわかったこと	○	○	○		○	44
10		常盤に語り継がれる港の話	○	○	○			24
11		地域で語り継がれる港の物語り ～湖上交通が盛んだっころの 記憶・思い出～	○	○	○			29
12		大津と山田を結ぶ定期船の思い出	○	○	○			42

平成29年度のスクール・セミナーのまとめ（1）

No	分類	タイトル	地域を知る 互いを知る	未来のイメージ の共有	新たな活動 の創出
1	アーバン デザイン スクール	草津の未来の交通について考える（全5回）	- 立命館大学生が調査した草津の交通状況を知った。 - ワークショップを通じて参加者の思いを知った。	最新の国内外の事例を紹介いただいた。	- フランス等の賑わい創出のための取組 - クロスセクターベネフィット等の新たな公共交通を導入する際の評価手法について知った。
2		都市の風景のつくりかた（全5回）	- 草津川跡地公園ができるまでの経緯を知った。 - リピーターが多く、顔見知りになり、交流を深めることができた。	- 全国各地のにぎわい創出の取組を共有した - 世界の都市の評価はオープンスペースの面積と適切な配置とそこでの魅力ある活動であることを知った。	- 新たな活動の創出手法として3つの手法を知った（次シート参照） - プロセスの共有することの大切さと模型や社会実験などを通して理解を深める重要性を知った。
3	未来創造 セミナー	新しく生まれ変わるUDCBK	- UDCBKに対する思いを共有できた。 - UDCBKの利活用イメージを共有できた。	—	備品等の検討により新たな活動を創出するために必要な機能を議論できた。
4		市民も変わる、行政も変わる!! オープンガバナンス	- 市の景観行政の課題を知ることができた。 - 市職員の景観百選への思いを知った。	あるべき景観の有り方を議論したことによって参加者の思いを共有した。	イノベーションを生み出すデザイン思考の考え方を知ることができた。

平成29年度のスクール・セミナーのまとめ（2）

No	分類	タイトル	地域を知る 互いを知る	未来のイメージ の共有	新たな活動 の創出
5	未来創造 セミナー	草津ってどんな感じ	参加者間で作成した地図を共有することにより、それぞれの持つ草津のイメージを知ることができた。	参加者が作成した地図をみながら、未来につながる課題を共有できた。	都市のイメージを絵にすることにより、新たな活動のニーズを把握した。
6		予測不能な時代の未来のまちづくりを考える	—	これからのまちづくりの課題はトランスサイエンスの問題であることを理解した。	問題解決には常に問い続けること、そして自由に気軽に意見が言える場所、議論できる場所、制度が必要であり、国内外で様々な手法があることを知った。
7		みんなでつくる「まちライブラリー」	ワークショップにより、参加者の本に対する思いを共有できた。	まちライブラリーがもたらした地域の変化を知った。	まちライブラリーという新たな活動のヒントを得た。
8		「感じて、ふれて、ベトナム！」フェスタ	野路の人々やベトナムコミュニティについて知ることができた。	外国にルーツを持つ人との共生の仕方がイメージできた。	多文化共生のための新たな活動のヒントを得た。
9		草津に生まれ育ち、そして草津を離れてわかったこと	- 講師の草津に対する思いをした。 - 県内他都市のデータ比較により草津の現状を把握できた。	データから予測できる草津の未来の状況を知ることができた。	講師の取り組む全国各地での新たな活動の起こし方を知った。

平成29年度のスクール・セミナーのまとめ（3）

No	分類	タイトル	地域を知る 互いを知る	未来のイメージ の共有	新たな活動 の創出
10	未来創造 セミナー	地域で語り継が れる港の物語り ～湖上交通が盛 んだったころの 記憶・思い出～	常盤に語り継 がれる港の話	- 昔は草津には三つの港があり、湖上が交通の中心であることを知った。 50年前までは定期船が就航しており、市内の移動でも湖上交通を利用していたことがわかった。	昔は琵琶湖が交通の中心であり、50年前までは定期船が就航していたことから、現状を大幅に変えることができた。
11			「急がば回 れ！」語源の 地矢橋の渡し への思い		
12			大津と山田を 結ぶ定期船の 思い出		

平成29年度を踏まえた今後の課題

- 様々な立場や考えによって様々な未来のイメージがあることを理解しつつ、**目指すべき方向性について合意**する。
- **地域の気候や地形の変化など自然と共生する生活により育まれた地域固有の文化を知り、連続性を持った都市空間デザインを検討していくこと。**
- 市民の様々な活動の観察やワークショップや社会実験等により、**可能な限り情報を収集（指標の設定と情報収集手法）し、様々な観点から評価（情報の分析）**できるようにすること。

UDCBK社会実験事前調査事業のまとめ

大学名	立命館大学	成安造形大学	京都橘大学
テーマ	Sustainable Design Lab. 市民とともにSDGsを考える 機会を創出し、そこから市民 の生活にSDGsがどのように浸 透していくか調査する。	琵琶湖のヨシを使用したア ートワークの実施による南草津 駅前広場におけるにぎわいの 創出	妊婦サロンにおける「産後早 期の子育てに向けた家族教室 (FFP)」の効果検証
市民参加	市民を対象にしてワーク ショップを計4回実施	市民対象のヨシを利用した アートワークを2回実施	FFPを合計5回実施
テーマ達成度	市民がSDGsを考える機会を創 出できたが、生活への浸透に ついては課題が残った。	行政と交渉し、アートワーク を南草津駅東口前広場に設置 することができた。	プログラムについては参加者 の満足度が高かった。
今後の活かし方	学生団体と連携しつつ、協働 でSDGsの考え方がまちづくりに 活かせるかを考える。	アーバンデザインスクールに てにぎわい創出手法を学ぶ際 の参考とする。	市関係部署に情報提供を行う。

今後のUDCBK社会実験事前調査事業の取組

- それぞれの提案内容を受け、市関連部署へのフィードバックを行い、事業の検証および検討の題材とする。
- 採択は包括協定締結大学1校1件を原則としていたが、提案しない大学もあることから、同一大学から複数件の採択を認めることとする。なお、包括協定締結大学全てから提案があった場合は1校1件とする。
- 市民協働とテーマ設定については来年度も引き続き条件とするが、テーマについては主にメインテーマ「健幸都市」、サブテーマ「情報」「文化」「自然」とし、詳細な内容は提案者に委ね、その内容により市が採択の可否を決定する。
- 今後は委託期間を9月から2月とし、3月に成果発表会を条件とする。
- 成果報告書について終了後、HP等に公開する。

新拠点移転後の利用状況

	オープンスペース	セミナー等	合計	一日平均
8月	5 5 8人	1 0 1人	6 5 9人	3 0人
9月	5 0 1人	1 1 1人	6 1 2人	3 1人
1 0月	3 9 4人	8 9人	4 8 3人	2 4人
1 1月	4 9 0人	8 7人	5 7 7人	2 9人
1 2月	4 4 2人	1 8 6人	6 2 8人	3 3人
1月	5 3 6人	1 9 3人	7 2 9人	3 8人
2月	6 6 1人	1 6 5人	8 2 6人	4 1人
3月	7 6 2人	2 1 6人	9 7 8人	4 4人
合計	4, 3 4 4人	1, 1 4 9人	5, 4 9 3人	3 4人
火曜日	9 6 7人			3 1人
水曜日	8 3 1人			2 5人
木曜日	9 4 9人			2 8人
金曜日	8 9 8人			2 8人
土曜日	6 9 9人			2 2人

全体の流れ

UDCBKの活動テーマ

平成29年度の活動テーマと実績

平成30年度の活動テーマと予定

法人化の検討状況について

平成30年度のテーマ

メイン

健 幸 都 市

サ ブ

インフラ
ストラク
チャー
(基盤整備)

情 報

カルチャー
(文化)

文 化

ネイチャー
(自然)

自 然

サブテーマの概要

■ 情 報（インフラクチャー） 「情報を集める、作る、分析する」

昨年度はスクール、セミナー等を通じて、情報の重要性を知りました。

ICTの発達に伴い、簡単に情報を集めたり、情報を作ったり、分析したりすることが出来るようになりました。このようなICTが作る未来のイメージを共有します。

■ 文 化（カルチャー） 「文化を知る」から「文化を創る」へ

昨年度は草津の歴史や文化について学習し、交流しました。

今年度は新しい価値観や技術と結びついた新たな文化を創造する空間を検討します。

■ 自 然（ネイチャー） 「琵琶湖」から、湖畔、流域、そして高台へ

昨年度は琵琶湖をテーマに湖上交通を学習し、交流しました。

今年度は琵琶湖湖畔の農業地域や琵琶湖に注ぎ込む河川流域、琵琶湖を見下ろす高台の自然と生活の関係について取り上げます。

平成30年度の予定

アーバンデザインスクール前期 シリーズ 歩いて巡る地域の魅力の伝え方
～カルチャー、ストラクチャー、ストーリー、ストリート、プレイス～

都市の健幸づくりは、思わず歩いて巡りたくなる地域を作ることです。

そのためには、次の5つの要素が重要です。

- カルチャー：地域の歴史や自然など人々の生活の積み重ね
- ストラクチャー：カルチャーを体現した地域固有の歴史的建造物
- ストーリー：思わず出かけたくなる魅力的な体験や“物語り”の発信
- ストリート：カルチャーやストラクチャーなどを巡りながら、快適に楽しく歩ける空間
- プレイス：ストリートの途中に適切に配置された、カルチャーを体験できたり、休んだり、交流できる賑わい空間

草津には白鳳時代からの湖上・陸上の交通の要衝としての歴史があり、草津の気候や立地、そこに住む人々の活動といった風土にあった有形無形の文化財があります。

これら有形無形の地域資源を活かした“歩いて巡る地域の魅力の伝え方”について5回シリーズで学びます。

アーバンデザインスクール前期

全体コーディネーター 及川清昭 UDCBKセンター長（立命館大学理工学部教授）

回	日時	タイトル	講演者
1	6月16日（土） 10:30～12:00	草津の歴史と自然 （カルチャー）	馬場将史 草津市教育委員会 文化財保護課
2	7月21日（土） 10:30～12:00	草津市の歴史的建造物 （ストラクチャー）	青柳憲昌 立命館大学 理工学部准教授
3	8月25日（土） 10:30～12:00	地域文化のストーリーのつくりかた （ストーリー）	丁野朗 東洋大学大学院 国際観光学部 客員教授
4	9月29日（土） 10:30～12:00	快適に歩ける歩行空間 （ストリート、プレイス）	石川亮 成安造形大学 付属近江学研究所准教授
5	10月27日（土） 10:30～12:30	ワークショップ 「歩いて巡りたくなる地域」のアイデア	藤井健史 立命館大学 理工学部助教

その他の予定

■ アーバンデザインスクール後期

- 後期については昨年度のアーバンデザインスクール後期、及び社会実験事前調査事業の経験を踏まえ、南草津駅西口広場をスタディエリアとしてにぎわい創出手法を学ぶ。

■ 未来創造セミナー（10～18回予定）

■ 「情報」

- ICTによる未来の社会のイメージを共有する（地元企業、大学等との連携）
- 自らの活動を評価するための指標の設定方法と測定手法について

■ 「自然」×「文化」

地域の自然条件のもとで、どのような暮らしが営まれてきたかを知る。（琵琶湖博物館等との連携）

その他の予定

■ その他

- 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科有志による「卒業設計展示」
(2018/4/25～5/23 済)
- 教科書展示会 平成31年度の小・中学校、高等学校用の教科書見本を展示
(2018/6/8～7/5)



UDCBKリーフレットの御案内（裏）



全体の流れ

UDCBKの活動テーマ

平成29年度の活動テーマと実績

平成30年度の活動テーマと予定

法人化の検討状況について

◆想定する法人組織

【決定必要事項】（一般社団法人を想定）

＜構成員＞

- ・一般社団法人の場合、社員2名から設立が可能。（社員は個人でも法人でも可能）
- ・代表理事を決定する必要がある。（他に、1名以上の理事が必要）
- ・現在の運営懇話会メンバーを想定。（市から今年度早々に構成団体へ依頼予定）
- ・市からの職員派遣は可能。
- ・構成団体からの職員派遣（あるいは出向）により構成することと併せて、法人独自で雇用することも想定する。（その他のUDC等を参考にする（P31参照））

（仮称）（一社）アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

- ・ まちづくり協議会連合会
- ・ 草津商工会議所
- ・ パナソニック アプライアンス社
- ・ 滋賀銀行

民

- ・ 包括協定締結大学

学

- ・ 草津市コミュニティ事業団
- ・ 草津市

公

◆議論したポイント

●費用面について

- 法人設立による資本金は不要であるが、法人化後の運営費の負担はどのようにするのか。
市からの運営委託費？負担金？（負担金の場合、市が構成員になる必要がある。）
各構成団体から負担金を募るのか？
→その他のUDC等を参考にする（P31参照）

●収入面について

- 市から事業受託をするのか。（市の各課の担当事業の一部をUDCBKに委託する）
- 補助金・助成金の獲得を目指す。（国・県・市等）
→臨時的収入・恒常的収入の両側面からの収入の確保が必要。

◆議論したポイント

●人材面について

- 現在の人員体制にするためにどのようにするのか。
法人独自で雇用するのか。
→雇用するのであれば、どの程度（職位、職種、人数等）法人雇用とするのか。
構成団体からどの程度人材を派遣できるのか。
- 代表理事は誰（どの組織）になるのか。
- 社員を自然人とするのか、あるいは法人とするのか。
→法的にはどちらでも可能。ただし、法人の場合は一部制約あり。
- 理事を何人にするのか。また、誰（どの組織）にするのか。

◆決定必須事項

【第1回法人化検討ワーキング部会にて出た意見】

①UDCBKの実施事業内容の精査およびそのために必要な人員数の整理。

→どのような事業を展開し、そのために必要な人員を再度整理する。

そこから算出される人員体制を整理し、組織体制を考える

②運営懇話会の委員の中で、社員（代表理事、理事を含む。）になっていただける意思のある組織等はあるのか。

→法人化の実現可能性についての判断材料とする。今回の運営懇話会にて議論する。

③他のUDCの社員に関する規定内容の確認および会費制度を採用しているかどうか。

→社員になるために資金・人材面からの規定が必要なのかどうか。

他のUDCを参考にして検討する。

◆今後のスケジュール

スケジュール（目安）	内容
～平成30年10月 （第3回開催まで）	実施事業内容 法人構成員 設立費用・設立後の費用分担
	人員体制 職員派遣に係る諸規定 定款の作成
	法人化の是非を決定
平成31年1月	登記申請（約1か月で認証が可能）
平成31年4月	法人として運営開始

<参考>

項目／組織	UDCK (一社／任意団体)	UDCO (一社)	環びわ (一社)
資金面	・ 設立時：三井不動産(株) ・ 運営費：柏市	・ 設立時：UDCO設立準備委託業務に含む ・ 運営費：さいたま市	・ 設立時：滋賀県・大学 ・ 運営費：会費
人材面	・ 柏市まちづくり公社：3名 ・ 市職員：1名 ・ 三井不動産雇用：2名 ・ 法人直接：2名	・ 法人直接雇用：4名	・ 法人直接雇用
法人化移行期間	—	約3年	約1年

法人化検討ワーキング部会の総括

実施団体	市	任意団体	一般社団法人	一般財団法人	NPO法人
メリット	安定財源がある	- 事業の自由度が高い - 法的手続きが不要	- 意思決定が早い - 助成金や補助金を取り込むことができる - 法務局への登記のみで設立が可能 - 企業の冠講座等の実施が可能 - 専門家の常駐が可能 - 設立時の財産が不要	- 意思決定が早い - 助成金や補助金を取り込むことができる - 法務局への登記のみで設立が可能 - 企業の冠講座等の実施が可能 - 専門家の常駐が可能	- 意思決定が早い - 助成金や補助金を取り込むことができる - 法務局への登記のみで設立が可能 - 企業の冠講座等の実施が可能 - 専門家の常駐が可能
デメリット (リスク)	- 意思決定に時間がかかる - 予算制約が大きい - 議会承認が必要 - 市の上位計画との整合性が必要 - 企業の冠講座等の実施が不可能	- プロジェクトベースでの事業展開となり、自転車操業 - 市から職員が派遣できない - 補助金を取り込むことができない	- 継続的な人材確保 - 継続的な運営資金の調達が課題	- 継続的な人材確保 - 継続的な運営資金の調達が課題 - 設立時に300万円の財産が必要	- 継続的な人材確保 - 継続的な運営資金の調達が課題 - 設立時に構成員が10人以上必要 - 構成員の入会制限が不可能

法人化に係る項目別比較表

実施団体	市	任意団体	一般社団法人	一般財団法人	NPO法人
設立費用	—	○	○	×	○
設立検討期間	—	○	×	×	×
資金（予算） 確保	△	×	○	○	○
人材確保	△	△	○	○	○
意思決定	×	○	○	○	△
事業スピード	×	○	○	○	△
収益事業	×	○	○	○	△
社会的信用	○	×	○	○	○